【　令和６年第４回定例予算特別委員会　】

【　米の安定的な生産について　】

今夏、昨年の高温などの影響による米の供給量の減少や地震、台風に備えた買い込みなどにより、全国的に米が品薄となる中、消費者の方々の不安も高まりました。今年度の新米が出回る時期となった現在も価格の高騰が続いています。

米の需給をめぐる急激な変化は、需要の減退、それにより価格が下落するといった混乱を招きかねないと考えます。

そこで、国民の主食である米の安定的な生産に関し、以下伺います。

（一）　需給動向等について

米の需給動向の現状に関して、５年前と比較して全国の主食用米の需要や生産がどのように推移しているのか伺います。また、併せて、道内における米の生産量の推移について伺います。

（答弁：農政部生産振興局水田担当課長　植村一郎）

・全国の主食用米の需要量は、令和元年６月までの１年間では735万㌧、令和６年には705万㌧と、５年間で30万㌧

減少。

・全国の生産量は、元年産は 726 万 1000 ㌧、6 年産では 679 万 2000 ㌧が見込まれ、5 年間で 46 万 9000 ㌧減少。

・北海道米の生産量は元年産の 55 万 3900 万トン、6 年産では 49 万 5500 ㌧と、5 年間で 5 万 8400 ㌧減少。

（二） 価格の動向について

米の過去 5 年の全国平均価格と北海道の主要品種である『ななつぼし』の価格の推移について伺います。

（答弁：水田担当課長　植村一郎）

・相対取引価格では、全銘柄平均価格は、2 年産の 60 kg当たり 1 万 4529 円から、3 年産は 1 万 2804 円に落ち込んだ。

・『ななつぼし』の価格は、2 年産の 1 万 4382 円から、3 年産は 1 万 2687 円に下落、6 年産は 2 万 4063 円と上昇。

（三） 生産量の動向について

同様に、全国と北海道の過去 5 年の米の 10a あたり生産量の推移について伺います。

（答弁：水田担当課長　植村一郎）

・個別経営体における 10㌃当たりの全算入生産費は、全国では、令和元年産の 12 万 9505 円からほぼ横ばいで推移。

・ 5 年産では、肥料費の増加などから、元年産に比べ 3358 円上昇し、13 万 2863 円。

・北海道では、元年産の 11 万 2751 円から 11 万円台で推移、5 年産では、元年産に比べ 2960 円上昇し、11 万 5711 円。

（四） 水田作経営の農業所得について

米の価格と生産費の推移について、それぞれ伺いましたが、道内の水田作経営の農業所得の推移については、どのようになっているのか伺います。

（答弁：水田担当課長　植村一郎）

・本道の水田作経営における個人経営体の農業所得は、令和元年の 278 万 8 千円から、2 年では 392 万 4 千円まで増加、その後、米価下落や肥料価格の高騰から、4 年では 249 万 3 千円。

（五） 多様な米生産について

主食用米の価格高騰により、加工用、米粉用、輸出用など他の用途の生産にも影響が出かねません。

道としては、こうした多様な米生産に対してどのように対応していくのか、伺います。

（答弁：生産振興局長　牧野充）

・米の価格が上昇し、産地において主食用米の生産意欲が高まる中、経営安定のためには、主食用米のみならず、加工用や米粉用など需要に応じた米生産をすることが重要。

・道では国の需給見通しや産地の作付け意向などを踏まえ、『生産の目安』を設定

・加工用米などの安定生産に向け、水田活用直接支払い交付金を活用して、低コスト・省力化の取組を支援し、多様なニーズに応えた米生産に取り組む

（六） 今後の安定生産に向けた対応について

今後の米生産に向けては、生産・消費双方がお互いに納得

できる関係のもと、安定的な価格・量で取引できることが重要と考えますので、丁寧な情報発信を行っていくことが必要です。

　米は全国的な対応が必要な課題ではありますが、全国でも有数な主産地である北海道として、将来にわたり安定的な米生産を進めていくため、どのように対応していくのか伺います。

（答弁：農政部長　水戸部　裕）

・北海道米の需給と価格の安定を図るためには、生産・消費双方が互いに納得しながら、北海道米を安定的に生産・供給することが重要。

・道では、米に関する適切な情報発信、卸売団体等と価格の動きや端境期の需給状況について情報共有。円滑な流通に向けて取り組んでいるところ。

・引き続き、多様なニーズに応えた米生産を進めるとともに、基盤整備やスマート農業、消費拡大や輸出促進、国に合理的な費用を考慮した価格形成の仕組みづくりと消費者の理解醸成を求めるなど、水田農業の持続的な発展に取り組む。